

令和2年度 此花区運営方針

(区長:高橋 英樹)

◆計画

区・局の目標（何をめざすのか）
区民が元気で笑顔にあふれ、区民の輪によって発展するまち「このはな」を実現する。

区・局の使命（どのような役割を担うのか）
①区民目線で顕在化している地域課題の解決に取り組む ②将来に向け、潜在化している地域課題を整備する

令和2年度 区・局運営の基本的な考え方（区・局長の方針）
区の新将来ビジョンの各項目「防災」「防犯」「子ども」「福祉」「健康」「環境」「まちづくり(地域活性化)」「まちづくり(担い手確保)」「まちづくり(ハードウェア)」「区役所」に掲げる”めざす姿”の達成に向け以下を行動指針とした取り組みを進めていく。 ・マーケティング(区民の声)とイノベーション(課題解決) ・3現主義(現地・現物・現実)

重点的に取り組む主な経営課題（様式2）

経営課題の概要	主な戦略
【経営課題1 防災】 日頃から区民一人ひとりが災害に対する備えを行い、地震や津波が発生した際には区民全員が安全に避難できる状態をめざす。	・(海溝型地震)区民一人ひとりが、所定の時間内に避難できるよう、区内一斉津波避難訓練を実施。

主な具体的取組（2年度予算額）

【1-1-1 防災】(令和2年度3,068千円) ・区内一斉に、南海トラフ地震を想定した津波避難訓練を実施(想定7千人規模)

経営課題の概要	主な戦略
【経営課題2 防犯】 ・見守り等の取り組みが日常化し、犯罪が少なく区民が安心して生活できる状態をめざす。	・子ども見守りを実施し、子ども被害件数減少をめざす。 ・青色防犯パトロール車両を2台に増やしパトロールを強化。

主な具体的取組（2年度予算額）

【2-1-1 防犯】(令和2年度1,238千円) ・子ども見守りを実施し、子ども被害件数減少をめざす。 ・青パト2台体制によるパトロールの実施。
--

経営課題の概要	主な戦略
【経営課題3 子ども】 ・子育てがしやすく、子どもの生活習慣や学習習慣が確立され、未来へ向けた子ども達の育成ができる状態をめざす。	・学力向上へ向け児童・生徒の指導を適切に行うためのツールの導入。 ・自主学習の充実を図るための取組 ・望ましい基本的生活習慣の確立などに向け、保護者との情報共有。

主な具体的取組（2年度予算額）

【3-1-1 子ども】(令和2年度8,582千円) ・子どもの学習に関する弱み・強みを知るため分析機能付単元別テストなどを実施し、その結果を教員が個々の児童・生徒の指導に活用するとともに、保護者にも情報提供を行うことにより自主学習の充実を図る。 ・望ましい基本的生活習慣や学習習慣の確立に向けた、自主学習ルームを継続設置。

経営課題の概要	主な戦略
【経営課題4 福祉】 ・声かけ・見守り・助け合いが日常化し、笑顔で繋がりがいきいきと暮らせる状態。 ・すべての子ども達が夢と希望をもって成長していける社会の実現。	・高齢者等の見守り事業を地域住民が主体的に取り組めるよう地域での認知度向上と活動の拡大に取り組む。

主な具体的取組（2年度予算額）

【4-1-1 福祉】(令和2年度8,276千円) ・地域の中での見守り活動の必要性和重要性の理解のため各地域への説明・意見交換の実施。 ・ボランティアリーダーの資質向上。

経営課題の概要	主な戦略
【経営課題5 健康】 ・区民がそれぞれ健康づくりの取り組みを行い健やかに暮らせる状態をめざす。	・在宅医療・介護連携の推進。 ・乳幼児健診受診率の向上。

主な具体的取組（2年度予算額）

【5-1-1 健康】(令和2年度一千円) 在宅医療・介護連携の推進 高齢者が、住み慣れた場所で、自分らしい生き方を過ごせるよう多職種協働による仕組みを構築するため、医師会等と連携し、医療機関と介護事業所等の関係者の連携を推進する。

経営課題の概要	主な戦略
【経営課題6 環境】 ・大人も子どもも楽しく環境を学びあい、人と人がふれあうことで思いやりのある、住み心地のよいまちとなっている状態をめざす。	・若年層や子育て層に環境活動に関心を持って参加してもらえるようなアイデア募集と実現にむけた支援を行う。 ・正蓮寺川公園において、環境問題に関するイベント等実施して、公園の完成経過を周知する。
主な具体的取組（2年度予算額）	
【6-1-1 環境】(令和2年度5,000千円) ・地域や企業と協力した一斉清掃等。 ・環境問題を解決して完成した、正蓮寺川公園のいきさつを知ってもらうための取組み。	
経営課題の概要	主な戦略
【経営課題7 まちづくり(地域活性化)】 ・元気な姿と笑顔にあふれ地域のコミュニケーションも盛んで区民がまちに愛着を持っている状態をめざし、地域課題の発見と解決策の検討にかかる支援の強化を図り、より多くの住民参加による自律的な地域運営を実現する。	・地域の課題の発見と解決策の検討にかかる区役所職員による支援を強化し、地域の実情に即したきめ細やかな支援を行う。
主な具体的取組（2年度予算額）	
【7-1-1 まちづくり(地域活性化)】(令和2年度43,473千円) ・地域担当チームによる地域レポートの充実と課題の抽出・検討。	
経営課題の概要	主な戦略
【経営課題8 まちづくり(担い手確保)】 ・元気な姿と笑顔にあふれ地域のコミュニケーションも盛んで区民がまちに愛着を持っている状態をめざし、幅広い年齢層が地域活動に参画できるようなルール作りの支援を行う。	・幅広い年齢層が地域活動に参画できるようなルール作りの支援。 ・やる気と能力のある新たな担い手確保への支援。 ・新たな担い手の参画促進に向けたICTを活用した仕組みづくり。
主な具体的取組（2年度予算額）	
【8-1-1 まちづくり(担い手確保)】(令和2年度43,473千円【再掲】) ・地域活性化支援事業受託事業者による地域担当職員対象の研修及び他地域での活動事例共有を行う。	
経営課題の概要	主な戦略
【経営課題9 まちづくり(ハードウェア)】 ・元気な姿と笑顔にあふれ地域のコミュニケーションも盛んで区民がまちに愛着を持っている状態をめざし、西九条駅から正蓮寺川公園への景観の向上に資する取り組みを行う。	・正蓮寺川公園を軸としたまちづくりをテーマに提案をいただき、その成果を今後のまちづくりに活用。
主な具体的取組（2年度予算額）	
【9-1-1 まちづくり(ハードウェア)】(令和2年度11,965千円) ・大阪工業大学から此花区におけるまちづくりの提案を受ける。	
経営課題の概要	主な戦略
【経営課題10 区役所】 ・区役所が区民に身近な行政機関として区民の意見を区政に反映し、市民満足度の高いサービスを提供している状態をめざす。	・浸水対策としての庁舎内レイアウトの改善。 ・庁内横断的プロジェクト等を活用しながら、課題の解決、職員の企画力向上を図る。
主な具体的取組（2年度予算額）	
【経営課題10-1-1 区役所】(令和2年度3,841千円) ・浸水対策としての庁舎内レイアウトの改善。 ・庁内横断的プロジェクト等を活用しながら、課題の解決、職員の企画力向上を図る。	

「市政改革プラン3.0」に基づく取組等（様式3）	
主な取組項目	取組内容
歳入の確保 国民健康保険料の収納率向上	・保険料負担の公平性の確保と本市の歳入増を図る。

◆自己評価

1年間の取組成果と今後取り組みたいこと

解決すべき課題と今後の改善方向

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題1

【防災】

【主なSDGsゴール】



めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年を念頭に設定＞

・日頃から区民一人ひとりが災害に対する備えを行い、地震や津波が発生した際には区民全員が安全に避難できる状態

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

・大地震等災害に対して自宅では何か備えをしている区民の割合

備えをしている	97%
備えをしていない	3%

・地震には、海溝型（津波を伴う）と直下型の2種類があり、取るべき避難行動が異なる。
 ・此花区域の大半が海拔0メートル以下であり、津波による大規模な浸水や長期湛水、風水害等による様々な被害が想定されている。

○南海トラフ巨大地震による被害等想定		
津波の到達時間	（地震発生後最短で）	約113分
津波の高さ（最大）	（大阪湾最低潮位より）	5.4m
浸水面積	（区面積の42.3%）	816ha

・地震の想定はもとより、長期湛水となった場合の解消の目途など、地域防災計画、明確でない点も多い。

要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

・来るべき想定される大災害に対し、区民において減災意識が必ずしも高くない。（災害への備え・訓練への参加率）

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

・想定外の自然災害に備え、区民一人ひとりが事前の備え（持出品、家庭内備蓄、家具の固定）を行っておく必要がある。
 ・地震の型（海溝型・直下型）に応じた適切な避難行動をとることができるよう、効果的な訓練や啓発を行う必要がある。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

自己評価

めざす成果及び戦略 1-1 【防災】

計画	めざす状態<概ね3~5年間で念頭に設定>		戦略(中期的な取組の方向性)						
	<ul style="list-style-type: none"> 区民一人ひとりが事前の備えを行い、適切に行動できる状態。 区民一人ひとりが、地震の型に応じた適切な避難行動ができる状態。 区民一人ひとりが、想定外の被害に対して柔軟に対応できる状態。 		<ul style="list-style-type: none"> 災害発生時の持出袋や食料等備蓄の重要性についての啓発。 (海溝型地震)区民一人ひとりが、所定の時間内に避難できるよう、区内一斉津波避難訓練を実施。 (直下型地震)災害時避難所を速やかに開設し、住民の受入れができるよう訓練を実施。 						
自己評価	アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標)		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須						
	<ul style="list-style-type: none"> 大地震に対する備えとして、最低限の物品(携帯トイレ・水・食糧)を備蓄している区民の割合:80%以上(目標年次:令和3年度) 全区民を対象として実施する実践的な津波避難訓練において所定の時間内に避難できた区民の割合:60%以上(目標年次:令和3年度) 実践的な避難所開設訓練において、速やかに開設を行えたと感じる参加者の割合:60%以上(目標年次:令和3年度) 		<table border="1"> <tr> <th>前年度</th> <th>個別</th> <th>全体</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		前年度	個別	全体		
前年度	個別	全体							
戦略のアウトカム指標に対する有効性		ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須					
アウトカム指標の達成状況		A:順調 B:順調でない							
戦略の進捗状況		a:順調 b:順調でない							

具体的取組 1-1-1 【防災】

30決算額 903 円 元予算額 5,846 円 2予算額 3,068 円

計画	当年度の取組内容		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)	
	<ul style="list-style-type: none"> 区内一斉に、南海トラフ地震を想定した津波避難訓練を実施(想定7千人規模) 地域ごとに防災訓練(津波避難訓練、避難所開設訓練)を実施 非常持出袋や家庭での備蓄について、イベント(区民まつり・舞洲マラソン等)での啓発を推進(目標50千人) 此花区医師会・薬剤師会と連携した災害時医薬品のローリングストックの整備 自衛隊との連携による津波避難行動の標準化 		<ul style="list-style-type: none"> ①大地震に対する備えとして、最低限の物品(携帯トイレ・水・食糧)を備蓄している区民の割合:80%以上 ②各地域で津波避難訓練を実施し、所定の時間内に避難できた区民の割合:60%以上 ③実践的な避難所開設訓練において、速やかに解説を行えたと感じる参加者の割合:60%以上 	
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	<ul style="list-style-type: none"> ①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成 		<p>【撤退基準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①上記目標が、70%未満であれば、事業を再構築する。 ②上記目標が、50%未満であれば、事業を再構築する。 ③上記目標が、50%未満であれば、事業を再構築する。 <p>前年度までの実績</p> <p>29年度 出前講座17回・津波避難訓練8地域・避難所開設訓練4地域・湾岸部津波対策推進WG会議 10回開催</p> <p>30年度 出前講座18回・津波避難訓練1地域・避難所開設訓練0地域 湾岸部津波対策推進WG会議 5回開催</p> <p>31年度(4~10月)出前講座18回・津波避難訓練1地域・避難所開設訓練0地域・湾岸部津波対策推進WG会議3回開催</p>	
自己評価	戦略に対する取組の有効性		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	<ul style="list-style-type: none"> ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定) 		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	<ul style="list-style-type: none"> ①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成 		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
戦略に対する取組の有効性		ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)		

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題2

【防犯】

【主なSDGsゴール】



めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間で念頭に設定＞

・見守り等の取組が日常化し、犯罪が少なく区民が安心して生活できる状態

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

・子ども被害発生件数

	30年					31年				
	(1月～3月)	(4月～6月)	(7月～9月)	(10月～12月)	年計	(1月～3月)	(4月～6月)	(7月～9月)	(10月～12月)	年計
此花区	2	6	8	6	22	6	1	2		
全市	104	149	135	74	462					

- ・子ども見守り隊の実施団体 14団体
- ・防犯カメラ台数 136台（内 公設置44台）
- ・子ども被害や街頭犯罪の発生に対する抑止のため、「子ども見守り隊」が子どもの登下校の見守りを行っている。
- ・青色防犯パトロールによる防犯活動として、区役所のほか防犯協会事業場防犯部会（USJ）が実施。
- ・地域の自主防犯活動において、青パト（公用車）活用を促進（梅香地域、青少年指導員・福祉委員、警友会）

・街頭犯罪発生件数

	27年□-12月)	28年□-12月)	29年□-12月)	30年(1-12月)	31年(1-8月)
街頭犯罪発生件数が24区最少	24区最少	24区最少	24区最少	24区最少	24区最少
街頭犯罪発生件数	340	366	327	324	471
うち自転車盗難件数	219	250	220	213	140

要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

・街頭犯罪件数は、前年度より減少し、24区中最少を維持している。しかし、子ども被害件数については、見守り活動や青パト巡回などの抑止活動を継続的に実施しているが、前年度より件数が増加傾向にある。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

- ・地域での、互いに顔の見える関係の中で、子ども見守り活動を継続していくことが必要である。
- ・青パト2台体制を継続し、警察や地域の自主防犯活動と連携し、更なる抑止・注意喚起が必要である。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

自己評価

めざす成果及び戦略 2-1 【防犯】

計画	めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定>		戦略（中期的な取組の方向性）	
	・子ども声かけ事案や街頭犯罪防止の区民主体の取組みが継続的に行われ、区民が安心して日常生活を送っている状態。 アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） ・子ども声かけ事案や街頭犯罪防止の取組により安心感をもって生活できると感じている区民の割合：60%以上（目標年次：令和3年度）		・子ども見守りを実施し、子ども被害件数減少をめざす。 ・青色防犯パトロール車両を2台に増台しパトロールを強化。 ・「こども110番の家」のさらなる協力強化 ・「はしるこども110番」の協力推進	
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須	
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体	今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須	
			A：順調 B：順調でない	
戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない			

具体的取組2-1-1 【防犯】

30決算額 774 円 元予算額 883 円 2予算額 1,238 円

計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）	
	・子ども見守りを実施し、子ども被害件数減少をめざす。（8小学校区での見守り活動 14団体・11ヶ月） ・青パト2台体制によるパトロールの実施。（週5回／10～12時・14～17時） ・子どもの見守りなど自主防犯活動を強化するため、広報紙などを活用し、青パトの地域団体による活用を促進（祭礼巡視、年末夜警など）。 ・子どもの安全・安心の確保を強化するため「こども110番の家」の登録を拡大する（目標総数4,000件） ・さらなるこどもの安全・安心の確保の強化のため「はしるこども110ばん」の普及促進。		・子ども声かけ事案や街頭犯罪防止の取組により安心感をもって生活できると感じている区民の割合：70%以上【撤退基準】 ・上記目標が、60%未満であれば、事業を再構築する。 前年度までの実績 29年度子ども見守り活動：14団体・11ヶ月 広報紙・HP・ツイッターによる広報：毎月・防災行政無線放送：11回 30年度（4～12月）子ども見守り活動：14団体・6ヶ月 広報紙・HP・ツイッターによる広報：12ヶ月 31年度（4～10月）子ども見守り活動：14団体・6ヶ月 広報紙・HP・ツイッターによる広報：12ヶ月	
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成			
戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す —：プロセス指標未設定（未測定）			
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成			
戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す —：プロセス指標未設定（未測定）			

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題3

【子ども】

【主なSDGsゴール】



めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年を念頭に設定＞

- ・子育てがしやすく、子どもの生活習慣や学習習慣が確立され、未来へ向けた子ども達の育成ができる状態
- ・すべての子ども達が夢と希望をもって成長していける社会の実現

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

- ・教科に関する調査結果(平成31年度大阪市「全国学力・学習状況調査」結果)

小学校			中学校		
	国語	算数		国語	数学
全 国	63.8	66.6	全 国	72.8	59.8
大阪市	58	65	大阪市	70	57

- ・基本的生活習慣～平成31年度大阪市「全国学力・学習状況調査」結果から～

○基本的生活習慣の項目における肯定的な回答の割合

小学校

	家で自分で計画を立てて勉強をしている	授業時間以外で1日1時間以上の勉強	将来の夢や目標を持っている	地域・社会に関心
全 国	71.5	66.1	83.8	54.5
大阪市	60.3	54.7	80.5	47.4

中学校

	家で自分で計画を立てて勉強をしている	授業時間以外で1日1時間以上の勉強	将来の夢や目標を持っている	地域・社会に関心
全 国	50.4	69.8	70.7	39.4
大阪市	40.5	66.0	66.1	30.8

※数値は肯定的回答の割合

- ・「子どもの生活に関する実態調査報告書(小学5年生)」(平成29年3月)
小学生における授業時間以外の勉強時間が、此花区では大阪市平均より、短い。

要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

- ・此花区の児童・生徒の学力は全国平均や大阪市平均と比べて低い。
- ・スマホの長時間使用など、基本的生活習慣上の問題が発生している。
- ・保護者として必要な認識や自覚がなく子育て支援につながらない家庭がある。

課題＜上記要因を解消するために必要なこと＞

- ・全国学力・学習状況調査の結果から、此花区の児童・生徒の学力は全国平均や大阪市平均と比べて低いので、学力向上のためには、学習習慣を確立する必要がある。
- ・学習習慣を確立させるためには、基本的生活習慣を子どもたちに身に付けさせることが必要である。
- ・多様化する現代社会をたくましく生き抜いていくためには、子どもを育てる親が子どもの教育に何が必要かを認識することや、子どもたちのロールモデルとなるような大人の多様性を示す取組が必要である。

自己評価

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

めざす成果及び戦略 3-1 【子ども】

計画	めざす状態<概ね3~5年間で念頭に設定> ・学習習慣が確立し、学力が向上している状態。 ・子ども達が、望ましい基本的な生活習慣を身につけている状態。 ・保護者が子どもの教育に何が必要かを認識している状態。		戦略<中期的な取組の方向性> ・学力向上へ向け児童・生徒の指導を適切に行うためのツールの導入。 ・自主学習の充実を図るための取組 ・望ましい基本的な生活習慣の確立などに向け、保護者との情報共有。	
	アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標) ①学習習慣が確立されている児童・生徒の割合:60%以上(目標年次:令和3年度) ②望ましい基本的な生活習慣が身に付いている児童・生徒の割合:60%以上(目標年次:令和3年度) ③ツールを用いて学力向上にむけた情報提供を受けた保護者の割合:70%以上(目標年次:令和3年度)			
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度	個別	全体
	A:順調 B:順調でない			
	戦略の進捗状況	a:順調 b:順調でない		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須

具体的取組 3-1-1 【子ども】

		30決算額	4,216 千円	元予算額	8,041 千円	2 予算額	8,582 千円
計画	当年度の取組内容 ・子どもの学習に関する弱み・強みを知るため分析機能付単元別テストなどを実施し、その結果を教員が個々の児童・生徒の指導に活用するとともに、保護者にも情報提供を行うことにより自主学習の充実を図る。(8小学校、単元別テスト24回/年、保護者へ情報提供3回/年) ・望ましい基本的な生活習慣や学習習慣の確立に向けた、自主学習ルームを継続設置(8小学校) ・中学生のキャリア教育強化に向けた職業講話・体験のメニューの拡充		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標) ①学習習慣が確立されている児童・生徒の割合:50%以上 ②望ましい基本的な生活習慣が身に付いている児童・生徒の割合:50%以上 【撤退基準】 上記①~②の目標が40%未満であれば事業を再構築する。 前年度までの実績 ・分析機能付単元別テストの実施(8小学校、単元別テスト24回/年、保護者へ情報提供3回/年) ・自主学習ルーム設置(8小学校) ・キャリア教育(12メニュー)				
	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須					
中間振り返り	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)					
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成						
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す —:プロセス指標未設定(未測定)					

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題4

【福祉】

【主なSDGsゴール】

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間を念頭に設定＞

・声かけ・見守り・助け合いが日常化し、笑顔で繋がりがいきいきと暮らせる状態

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

・単身高齢者や認知症の方の増加が見込まれる中、見守りを必要とする対象者の増加も見込まれる。

・高齢者単身率

	大阪市			此花区		
	65歳以上	65歳以上	伸び率	65歳以上	65歳以上	伸び率
	単身世帯	単身世帯率	(22→27)	単身世帯	単身世帯率	(22→27)
平成22年国調	176,922	13.49%	1.38%	3,984	13.51%	1.05%
平成27年国調	201,070	14.87%		4,467	14.56%	

・見守りタイ事業実績

	ボランティア	見守り対象者数(人)	見守り実施件数(件) (訪問等累計)
	登録者数(人)		
平成28年度	269	547	11,921
平成29年度	280	504	10,040
平成30年度	268	500	10,387

・認知症の人の将来推計

年	H24	H27	R2	R7	R12	R22	R32	R42
	2012	2015	2020	2025	2030	2040	2050	2060
各年齢の認知症有病率が一定の場合の将来推計 人数／(率)	462万人 15.0%	517万人 15.5%	602万人 16.3%	675万人 18.5%	744万人 20.2%	802万人 20.7%	797万人 21.1%	850万人 24.5%
各年齢の認知症有病率が上昇する場合の将来推計 人数／(率)		525万人 15.2%	631万人 17.5%	730万人 20.0%	830万人 22.5%	953万人 24.6%	1016万人 27.0%	1154万人 33.3%

要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

・単身高齢化率が伸びて、認知症の方も増加が推計されており、今後も見守り対象者が増加する傾向にある。
 ・見守りボランティアについては、登録者数が横ばいとなっている中、介護保険の総合事業への移行や単身高齢者の増加に伴い、見守りタイのボランティアをはじめ、地域の福祉を支えている方の負担が増えていくと考えられる。

課題＜上記要因を解消するために必要なこと＞

・高齢者や障がい者、子育て世帯等が安心して暮らしていけるまちにするためには、近隣の住民と日常的な関係を築き、生活課題の発見や早期の対応を行うことができる地域のアンテナ役、つなぎ役となる担い手が必要である。
 ・子育て、教育、福祉就労など複合的な課題を持つ世帯に対する総合的な支援や、さまざまな支援制度があるにもかかわらず、それを利用していない世帯を支援につなげる仕組みが必要である。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

自己評価

めざす成果及び戦略 4-1 【福祉】

計画	めざす状態<概ね3~5年間で念頭に設定> ・近隣の住民と日常的な関係を築きつつ、生活課題の発見や早期の対応を行うことができる地域のアンテナ役、つなぎ役の担い手が充足している状態。	戦略<中期的な取組の方向性> ・高齢者等の見守り事業を地域住民が主体的に取組めるよう地域での認知度向上と活動の拡大に取り組む。
	アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標) ・地域から十分な見守りを受けている高齢者や障がい者等の割合:50%以上(目標年次:令和3年度)	

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体	
			今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
		A:順調 B:順調でない	
	戦略の進捗状況	a:順調 b:順調でない	

具体的取組 4-1-1 【福祉】

30決算額 7,602 千円 元予算額 8,286 千円 2予算額 8,276 千円

計画	当年度の取組内容 ・地域の中での見守り活動の必要性和重要性の理解のため各地域への説明・意見交換の実施。(説明会・意見交換会の開催:各地域1回) ・ボランティアリーダーの資質向上(研修:2回、連絡会の開催:4回) ・障がい者支援センターの体制強化	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標) ・地域から十分な見守りを受けている高齢者や障がい者等の割合:40%以上 【撤退基準】 上記目標が30%未満であれば事業を再構築する。
		前年度までの実績 H30年度 ボランティアリーダーの資質向上にかかる研修(2回)、連絡会の開催(4回) (H31年3月現)

中間振り返り	プロセス指標の達成状況	課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成	
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況	
		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
		①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題5

【健康】

【主なSDGsゴール】

3

すべての人に
健康と福祉を

めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間で念頭に設定＞

区民が自分自身のライフスタイルにあった健康づくりの取組みを行い、健やかに暮らせる状態

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

・健康寿命(※)の比較;平成25年(単位:年) 資料:厚生労働科学研究「研究報告書」
 (※)健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のこと

	国	大阪府	大阪市	此花区
男	78.72	78.01	76.74	76.74
女	83.37	82.48	82.12	81.71

・健康づくりの取組は、さまざまなものが行われているが、メンバーに固定化傾向が見られ、広がりを見せていない。

・自身の健康状態を把握している区民の割合

(H28年区民モニター)	
把握している	83.1%
把握していない	16.2%
無回答	0.7%

・健康づくりの取組を行っている区民の割合

(H26年区民モニター)		※30代の回答		※40代の回答	
行っている	74.0%	行っている	59.2%	行っている	52.1%
行っていない	26.0%	行っていない	40.8%	行っていない	47.9%

要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

・此花区の健康寿命は、国や大阪府に比べ短い状態にある。
 ・自らの健康状態に関心を持つ（把握している）区民の割合は高いが、実際の取組みを行っている人の割合は低い。
 ・健康づくりの取組を行っている人の割合については、年代別で差が大きくなっている。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

自らの健康状態に関心を持つ区民の割合は高いが、実際の取組みを行っている人の割合は低いので、様々な年齢層をターゲットにしたライフステージにあわせた健康づくりの取組みが必要。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

自己評価

めざす成果及び戦略 5-1 【健康】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定>		戦略（中期的な取組の方向性）	
	・区民がそれぞれのライフステージにあわせた健康づくりの取組を行っている状態 アウトカム（成果）指標（めざす状態を数値化した指標） ・在宅医療・介護連携が進んでいると感じる関係者の割合（アンケート調査）60%以上（目標年次：令和3年度） ・健康づくりの取組を実践している区民の割合：50%以上（目標年次：令和3年度）		・在宅医療・介護連携の推進。 ・乳幼児健診受診率の向上。	
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、戦略を見直す		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度	個別	全体
	A：順調 B：順調でない			
	戦略の進捗状況	a：順調 b：順調でない		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須

具体的取組5-1-1 【健康】

30決算額 0円 元予算額 0円 2予算額 0円

計画	当年度の取組内容		プロセス（過程）指標（取組によりめざす指標）	
	【在宅医療・介護連携の推進】 高齢者が、住み慣れた場所で、自分らしい生き方を過ごせるよう多職種協働による仕組みを構築するため、医師会等と連携し、医療機関と介護事業所等の関係者の連携を推進する。 ・在宅医療・介護連携を推進する会議（6回） 【乳幼児健診受診率の向上】 母子保健法に基づき、乳幼児の疾病の予防・早期発見などの健康状況の把握のため、3か月、1歳6か月、3歳児を対象とした乳幼児健診について、受診率の向上を目指す。 ・電話・訪問など関係機関と連携した未受診者（の保護者）への働きかけ ・3か月、1歳6か月での未受診者（の保護者）への1歳6か月、3歳の受診勧奨		（在宅医療・介護連携の推進） ①在宅医療・介護連携が進んでいると感じる関係者の割合（アンケート調査）55%以上 （乳幼児健診受診率） ②3か月健診 99.0%以上 ②1歳6か月健診 98.0%以上 ②3歳児健診 94.5%以上 【撤退基準】 ①40%未満の場合は取組みを再構築する。 ②前年度未満の場合は取組みの再構築を検討する。	
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①：目標達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ②：目標未達成（見込）（i）取組は予定どおり進捗（ii）取組は予定どおり進捗していない ③：撤退・再構築基準未達成			
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す —：プロセス指標未設定（未測定）		
自己評価	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①：目標達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ②：目標未達成（i）取組は予定どおり実施（ii）取組を予定どおり実施しなかった ③：撤退・再構築基準未達成			
	戦略に対する取組の有効性	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す —：プロセス指標未設定（未測定）		

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題6

【環境】

【主なSDGsゴール】



めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年を念頭に設定＞

・大人も子どもも楽しく環境を学びあい、人と人がふれあうことで思いやりのある、住み心地のよいまちとなっている状態

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

・「まちがきれい」と感じている区民の割合（このはな環境創造ビジョン策定のための区民意識調査の結果）

項目	割合
とてもきれいだと思う	3.0%
まあきれいだと思う	30.2%
どちらともいえない	32.6%
あまりきれいだと思う	29.5%
まったくきれいだと思う	3.8%
無回答	0.9%

・普段行っていないが興味がある環境活動

項目（上位4項目）	割合
ガレージセールやフリーマーケットなど使わなくなったものの物々交換、販売	42%
空き地を区民花壇にして運営や利用者として参加	38%
日用品の共同購入	35%
災害時に備えた水や食料などの共同購入	32%

・若い世帯で「子どもが遊べる・学べる環境」を求める声がある。

項目	割合
非常に満足	1.0%
やや満足	15.5%
どちらともいえない	25.9%
やや不満	32.3%
非常に不満	23.3%
不明	1.9%

・「ごみ拾いや草むしりなどの地域の清掃活動に参加」している若年層の割合

年齢層	割合
20～29歳	2.6%
30～39歳	3.0%

要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

・各地域において早朝清掃等活動が行われているが、「まちがきれい」と感じている区民の割合は少ない。
 ・地域社会との関係性が薄い層でもガレージセールやフリーマーケットなど「自分にメリットがあるもの」には興味がある。

課題＜上記要因を解消するために必要なこと＞

・地域や企業が実施している清掃活動等の情報発信が必要。
 ・若年層、子育て層など誰もが環境活動に参加しやすい雰囲気やきっかけづくりが必要。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

自己評価

めざす成果及び戦略 6-1 【環境】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定>		戦略<中期的な取組の方向性>	
	・若年層、子育て層など誰もが環境活動に参加しやすい雰囲気やきっかけのある状態。 ・環境に対する自覚を持ってマナーやルールを守り、まちがきれいな状態。 ・環境について、継続してみんなで学び、意識しあえる状態。 ・住民たちが環境問題に取り組んだ結果、正蓮寺川公園が完成したという経過を後世の人々に伝承できる状態。 アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標)		・若年層や子育て層に環境活動に関心を持って参加してもらえるようなアイデア募集と実現にむけた支援を行う。 ・将来を担う子ども達に環境に関する関心を持たせる環境学習講座の開催。 ・正蓮寺川公園において、環境問題に関するイベント等実施して、公園の完成経過を周知する。	
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性		ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す	
	アウトカム指標の達成状況		前年度	個別 全体
			A:順調 B:順調でない	
戦略の進捗状況		a:順調 b:順調でない		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
				今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須

具体的取組6-1-1 【環境】

		30決算額	4,411 千円	元予算額	5,000 千円	2予算額	5,000 千円
計画	当年度の取組内容		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)				
	・地域や企業と協力した一斉清掃等。(3回) ・地域や企業等が行っている清掃活動について区が作成した「お掃除マップ」を充実させることにより、区民等に周知し、清掃活動の輪を広げる。 ・区内小中学校の環境学習など身近な環境の取組みへの支援。 ・環境問題を解決して完成した、正蓮寺川公園のいきさつを知ってもらうための取組み。		・緑化、美化などの環境活動に関心がある若年層以下の区民の割合:60%以上 ・正蓮寺川公園が環境問題を解決した結果できた公園であることを知っている区民の割合:50%以上 【撤退基準】 ・緑化、美化などの環境活動に関心がある若年層以下の区民の割合:50%未満であれば事業を再構築する。 ・正蓮寺川公園が環境問題を解決した結果できた公園であることを知っている区民の割合:50%未満であれば事業を再構築する。 前年度までの実績 ・毎月の地域一斉清掃のほか、企業や地域での一斉清掃(3回) ・清掃の輪を広げる「お掃除マップ」の充実。 ・区内小中学校の環境学習支援(23環境学習支援) ・公園を活用するきっかけとなる手形レプリカ(シール画像)の設置				
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成						
自己評価	戦略に対する取組の有効性		ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須		
	当年度の取組実績						
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須				
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成						
戦略に対する取組の有効性		ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す 一:プロセス指標未設定(未測定)					

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題7

【まちづくり(地域活性化)】【ニア・イズ・ベターの徹底(改革の柱4-1)】

【主なSDGsゴール】



めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間を念頭に設定＞

元気な姿と笑顔にあふれ地域のコミュニケーションも盛んで区民がまちに愛着を持っている状態

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

①地活協の意義や地活協に求められる準行政的機能や総意形成機能について、地活協構成団体の理解が促進されているものの、理解度は低い。

準行政的機能を認識している割合	
平成29年度	58.2%
平成30年度	46.9%
総意形成機能を認識している割合	
平成29年度	—
平成30年度	48.0%

②地活協による自律的な地域運営に向けて、まちづくりセンターが有する専門的なスキル・ノウハウを活用しながら支援を行ってきたことで、一定取組の増加や自律度の向上はみられるものの、地域の実情に応じた取組が進んでいない地域がある。

③区のホームページや広報紙、各種イベントのリーフレットを活用して地活協の認知度向上につとめているものの、認知度向上が図れていない。

地域活動協議会を知っている区民の割合	
平成29年度	18.8%
平成30年度	37.6%

要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）

- ①地活協の意義や求められる機能について、理解を促進するための取組が十分でないと考えられる。
- ②全地域一律の支援ではなく、地域の特性に応じた支援が十分でないと考えられる。
- ③地活協の活動や取組について、区民に伝わっていないと考えられる。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

- ①地活協の意義や求められる機能について理解が深まるよう、積極的な働きかけを行うこと。
- ②地活協への支援の効果検証に基づき、地域の実情に即した最適な支援を行うこと。
- ③地活協の活動を広報紙や各種イベント等においてリーフレットを配付するなど、認知度向上につなげること。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

自己評価

めざす成果及び戦略 7-1 【まちづくり(地域活性化)】

計画	めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定> 地域住民が、自分たちの住むまちの課題を具体的に把握し、解決に向けた取組が自律的に進められている状態	戦略(中期的な取組の方向性) 地域の課題の発見と解決策の検討にかかる区役所職員による支援を強化し、地域の実情に即したきめ細やかな支援を行うとともに、「声かけ」「見守り」「助け合い」「支えあい」のきっかけとなる行事やイベントを実施するなど、多くの住民参加による自律的な地域運営を実現する。
	アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標) ・地活協の構成団体が、地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態にあると思う割合: 94%以上(目標年次: 令和5年度) ・自分の居住する地域の課題を知っている区民の割合: 70%以上(目標年次: 令和5年度) ・自分のまちに愛着をもっている区民の割合: 80%以上(目標年次: 令和5年度)	

自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、戦略を見直す	課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度 個別 全体	
			今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須
		A: 順調 B: 順調でない	
	戦略の進捗状況	a: 順調 b: 順調でない	

具体的取組 7-1-1 【まちづくり(地域活性化)】

	30決算額	円	元予算額	円	2予算額	円
計画	当年度の取組内容	プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)				
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域担当チームによる地域レポートの充実と課題の抽出・検討。(9地域) ・地活協の意義や地活協に求められる準行政的機能や総意形成機能について、地活協の役員や構成団体、地域住民の理解が深まるような積極的な働きかけを行う。 ・まちづくりセンター等による地活協への支援の効果検証に基づき、地域の実情に即した最適な支援を実施する。 ・地域活動協議会の活動支援を継続。(9地域) ・コミュニティ育成事業を継続。(4事業以上) ・区民のつながりが深まることを期待して挑戦、世界記録を達成した「ペーパーハンド」レプリカ(シール画像)を正連寺川公園に設置。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地活協の構成団体が、地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態にあると思う割合: 70%以上 ②自分の居住する地域の課題を知っている区民の割合: 62%以上 ③自分のまちに愛着をもっている区民の割合: 72%以上 				
		【撤退・再構築基準】				
		<ul style="list-style-type: none"> ①上記目標が30%未満であれば、事業を再構築する。 ②上記目標が30%未満であれば、事業を再構築する。 ③上記目標が30%未満であれば、事業を再構築する。 				
		前年度までの実績				
		<ul style="list-style-type: none"> ・地域担当チームによる地域情報や課題の把握、地域レポートの内容充実(9地域) ・地域活動協議会の活動支援を継続(9地域) ・コミュニティ育成事業を継続実施(5事業) ・「ペーパーハンド」レプリカ(シール画像)を正連寺川公園に設置 				


中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	①: 目標達成(見込) (i) 取組は予定どおり進捗 (ii) 取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i) 取組は予定どおり進捗 (ii) 取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成		
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)	

自己評価	当年度の取組実績	課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況	
	①: 目標達成 (i) 取組は予定どおり実施 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i) 取組は予定どおり実施 (ii) 取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成	改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題8

【まちづくり(担い手確保)】

計 画	【主なSDGsゴール】 <div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px; margin-left: 10px;"> 17 パートナリシップ 目標を達成しよう  </div>									
	めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間で念頭に設定＞									
	・元気な姿と笑顔にあふれ地域のコミュニケーションも盛んで区民がまちに愛着を持っている状態									
	現状（課題設定の根拠となる現状・データ）									
	・地域活動に参加している区民の割合 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>参加している</td> <td>13.80%</td> </tr> <tr> <td>参加していない</td> <td>86.20%</td> </tr> </table>	参加している	13.80%	参加していない	86.20%					
	参加している	13.80%								
	参加していない	86.20%								
・地域活動に参画しやすい環境が整っていると感じる区民の割合【再掲】 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>感じる</td> <td>2.4%</td> </tr> <tr> <td>どちらかといえば感じる</td> <td>19.8%</td> </tr> <tr> <td>あまり感じない</td> <td>43.7%</td> </tr> <tr> <td>感じない</td> <td>26.6%</td> </tr> <tr> <td>どちらともいえない</td> <td>6.1%</td> </tr> </table>	感じる	2.4%	どちらかといえば感じる	19.8%	あまり感じない	43.7%	感じない	26.6%	どちらともいえない	6.1%
感じる	2.4%									
どちらかといえば感じる	19.8%									
あまり感じない	43.7%									
感じない	26.6%									
どちらともいえない	6.1%									
要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果） <p>・地域活動は、地域活動団体の役員によって担われており、新たな担い手が不足している状況である。</p> <p>・50歳代は職業生活の最盛期であり、60歳代は年金受給年齢の引上げに伴い稼働年齢層となっていることから、地域活動の専任的な担い手となるのは困難な状況が今後も続く。</p>										
課題（上記要因を解消するために必要なこと） <p>・地域の公益活動等の担い手を確保するには、地域課題を解決するための取組に、住民個々人が、自分のできることを、できる時に、できる範囲で関わられるようにする必要がある。</p>										

自 己 評 価	戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

めざす成果及び戦略 8-1 【まちづくり(担い手確保)】

計画	めざす状態<概ね3~5年間を念頭に設定>		戦略(中期的な取組の方向性)							
	<ul style="list-style-type: none"> 新たな担い手が、地域課題について、自分のできることをできる範囲で取り組み、地域実情に合わせた解決が図られている状態。 		<ul style="list-style-type: none"> 幅広い年齢層が地域活動に参画できるようなルール作りの支援。 やる気と能力のある新たな担い手確保への支援。 新たな担い手の参画促進に向けたICTを活用した仕組みづくり。 							
自己評価	アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標)		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須							
	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動に参画したことのある区民の割合:60%以上(目標年次:令和3年度) 		<table border="1"> <tr> <th>前年度</th> <th>個別</th> <th>全体</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		前年度	個別	全体			
	前年度	個別	全体							
戦略のアウトカム指標に対する有効性		ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す								
戦略の進捗状況		a:順調 b:順調でない								
今後の対応方向			※有効性が「イ」の場合は必須							

具体的取組8-1-1 【まちづくり(担い手確保)】


30決算額 43,161 円 元予算額 43,408 円 2予算額 43,473 円

計画	当年度の取組内容		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)	
	<ul style="list-style-type: none"> 地域担当チームによる地域レポートの充実と課題の抽出・検討。(9地域) 地域活性化支援事業受託事業者による地域担当職員対象の研修及び他地域での活動事例共有を行う 		<ul style="list-style-type: none"> 地縁型団体が行う活動に参加している区民の割合:25%以上 	
	<ul style="list-style-type: none"> 【撤退基準】 上記目標が、15%未満であれば、事業を再構築する。 		前年度までの実績 【平成30年度】 <ul style="list-style-type: none"> 地域担当チームによる地域レポートの充実と課題の抽出・検討(9地域) 地域活性化事業受託事業者による地域担当職員対象のファシリテーション研修を実施 同じ活動をしている方の交流会を開催し、担い手をうまく取り込んでいる事例の共有を実施 他区における事例の見学会を開催 【令和元年度】 <ul style="list-style-type: none"> 地域担当チームによる地域レポートの充実と課題の抽出・検討(9地域) 地域活性化支援事業受託事業者による地域担当職員対象の研修及び他地域での活動事例共有を行う 	
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①:目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成			
自己評価	戦略に対する取組の有効性		ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)	
	当年度の取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成		戦略に対する取組の有効性 ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)	

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題9

【まちづくり(ハードウェア)】

計 画	【主なSDGsゴール】 <div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px; margin-left: 10px;"> 17 <small>パートナーシップで 目標を達成しよう</small>  </div>
	めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年間で念頭に設定＞
	<ul style="list-style-type: none"> ・元気な姿と笑顔にあふれ地域のコミュニケーションも盛んで区民がまちに愛着を持っている状態
	現状（課題設定の根拠となる現状・データ）
	<ul style="list-style-type: none"> ・正蓮寺川公園は、平成30年度末に千鳥橋から高見・大開まで供用開始。 ・正蓮寺川公園の利用者が少ない。
	要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）
<ul style="list-style-type: none"> ・今後、正蓮寺川総合整備事業として公園整備が順次進められていくことになっている。 ・正蓮寺川公園の一部供用開始がPRできていないことから、区民への浸透が十分ではない。 	
課題（上記要因を解消するために必要なこと）	
<ul style="list-style-type: none"> ・正蓮寺川公園を軸とした地域のまちづくりを整備する必要がある。 ・正蓮寺川公園に関する情報を区役所から適宜発信して認知度を高め、区民に公園利用を通じて正蓮寺川公園への関心を高めてもらい、愛着をもってもらおう。 	
自 己 評 価	戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

めざす成果及び戦略 9-1 【まちづくり(ハードウェア)】

計画	めざす状態<概ね3~5年間で念頭に設定>		戦略(中期的な取組の方向性)	
	・正蓮寺川公園を軸としたまちづくりの整備に対して区民が関心をもってもらう状態。 アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標)		・正蓮寺川公園を軸としたまちづくりをテーマに提案をいただき、その成果を今後のまちづくりに活用。	
	・正蓮寺川公園を軸としたまちづくりのイメージを与えるようなアイデアの取りまとめ(目標年次:令和3年度)			
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す		課題 ※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度	個別	全体
	A: 順調 B: 順調でない			
	戦略の進捗状況	a: 順調 b: 順調でない		今後の対応方向 ※有効性が「イ」の場合は必須

具体的取組9-1-1 【まちづくり(ハードウェア)】


30決算額 5,613千円 元予算額 2,935円 2予算額 11,965円

計画	当年度取組内容		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)	
	・大阪工業大学から此花区におけるまちづくりの提案を受ける。(回数:1回) ・正蓮寺川公園を含めたまちづくりに係る区民のニーズ調査(アンケートの実施)		・正蓮寺川公園を軸にしたまちづくりの提案の取りまとめ(提案件数1件) ・区民を対象としたアンケートの実施(実施回数1回) 【撤退基準】 提案提出が無い場合は、事業を再構築する。	
			前年度までの実績	
中間振り返り	プロセス指標の達成状況		課題と改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①: 目標達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ②: 目標未達成(見込) (i)取組は予定どおり進捗 (ii)取組は予定どおり進捗していない ③: 撤退・再構築基準未達成			
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)		
自己評価	当年度取組実績		課題 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	プロセス指標の達成状況		改善策 ※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須	
	①: 目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②: 目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③: 撤退・再構築基準未達成			
	戦略に対する取組の有効性	ア: 有効であり、継続して推進 イ: 有効でないため、取組を見直す ー: プロセス指標未設定(未測定)		

重点的に取り組む主な経営課題

経営課題10

【区役所】

計 画	【主なSDGsゴール】 									
	めざすべき将来像（最終的なめざす状態）＜概ね10～20年を念頭に設定＞									
	<ul style="list-style-type: none"> 区役所が区民に身近な行政機関として区民の意見を区政に反映し、市民満足度の高いサービスを提供している状態。 									
	現状（課題設定の根拠となる現状・データ）									
	<ul style="list-style-type: none"> 此花区役所の現状 昭和40年築 3階建て 区庁舎の立地場所は海拔マイナス2mである。 南海トラフ巨大地震による被害等想定 <table border="1" data-bbox="175 638 965 840"> <tr> <td>津波の到達時間</td> <td>(地震発生後最短で)</td> <td>約113分</td> </tr> <tr> <td>津波の高さ(最大)</td> <td>(大阪湾最低潮位より)</td> <td>5.4m</td> </tr> <tr> <td>浸水面積</td> <td>(区面積の42.3%)</td> <td>816ha</td> </tr> </table>	津波の到達時間	(地震発生後最短で)	約113分	津波の高さ(最大)	(大阪湾最低潮位より)	5.4m	浸水面積	(区面積の42.3%)	816ha
	津波の到達時間	(地震発生後最短で)	約113分							
	津波の高さ(最大)	(大阪湾最低潮位より)	5.4m							
浸水面積	(区面積の42.3%)	816ha								
要因分析（めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果）										
<ul style="list-style-type: none"> 区庁舎は地域防災の拠点であるものの、既に築50年以上が経過している。 津波による浸水で書類等の流出が懸念される。 区役所職員には、担当業務における正確性・迅速性の確保とともに適切な接遇が求められている。 地域の課題等を解決するためには区役所職員の企画・立案能力を高める必要がある。 										
課題＜上記要因を解消するために必要なこと＞										
<ul style="list-style-type: none"> 津波による浸水後も、区庁舎は地域防災の拠点としての機能維持が求められる。 セキュリティの高い建物、設備である必要がある。 法令等の知識と業務処理スキルを兼ね備えた職員、新たな施策を企画する力のある職員の育成が必要である。 										
自 己 評 価	戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括									
	(Blank area for self-evaluation)									

めざす成果及び戦略 10-1【区役所】

計画	めざす状態<概ね3~5年を念頭に設定>	<ul style="list-style-type: none"> 区庁舎が、地震災害や津波による浸水被害に耐えうる建物となっており、平常時においてもセキュリティの高い建物、設備となっている状態。 業務の正確性、迅速性が高まっている状態。 職員の施策の企画・立案にかかるスキルを高めるための人材育成が図られている状態。 		戦略<中期的な取組の方向性>	<ul style="list-style-type: none"> 浸水対策としての庁舎内レイアウトの改善。 休日・夜間の執務スペースの施錠や個人情報記載書類の適正管理。 業務の正確性・迅速性を高めるとともに、業務スキルの向上をめざす職員研修を実施する。 庁内横断的プロジェクト等を活用しながら、課題の解決、職員の企画力向上を図る。
	アウトカム(成果)指標(めざす状態を数値化した指標)	<ul style="list-style-type: none"> 区役所業務の正確性、迅速性や業務に必要な法令知識等の業務スキルが以前より向上したと感じる職員の割合:75%以上(目標年次:令和3年度) 職員が業務を正確かつ迅速に行い、丁寧に制度説明していると感じる区民の割合:55%以上(目標年次:令和3年度) 企画力、情報発信力のスキルが以前より向上したと感じている職員の割合:75%以上(目標年次:令和3年度) 			
自己評価	戦略のアウトカム指標に対する有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、戦略を見直す		課題	※有効性が「イ」の場合は必須
	アウトカム指標の達成状況	前年度	個別	全体	
	戦略の進捗状況	a:順調 b:順調でない		今後の対応方向	※有効性が「イ」の場合は必須
			A:順調 B:順調でない		

具体的取組10-1-1【区役所】

30決算額 715 千円 元予算額 16,984 千円 2 予算額 3,841 千円

計画	当年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 浸水対策としての庁舎内レイアウトの改善。(レイアウト改善:1箇所以上) 個人情報記載書類の適正管理。 業務の正確性・迅速性を高めるとともに、企画力向上や業務スキルの向上をめざす職員研修を実施する。(年1回) 庁内横断的プロジェクト等を活用しながら、課題の解決、職員の企画力向上を図る。 		プロセス(過程)指標(取組によりめざす指標)	<ul style="list-style-type: none"> 区役所業務の正確性、迅速性や業務に必要な法令知識等の業務スキルが以前より向上したと感じる職員の割合:70%以上 職員が業務を正確かつ迅速に行い、丁寧に制度説明していると感じる区民の割合:50%以上 企画力、情報発信力のスキルが以前より向上したと感じている職員の割合:70%以上 【撤退基準】 ①上記目標が、40%未満であれば、事業を再構築する。 ②上記目標が、25%未満であれば、事業を再構築する。 ③上記目標が、40%未満であれば、事業を再構築する。
				前年度までの実績	<ul style="list-style-type: none"> 庁内横断的プロジェクト等を活用しながら、1階フロアのレイアウト改善を実施 個人情報記載書類の適正管理を継続実施。 休日・夜間の執務スペースの施錠を継続実施。 企画力や業務スキルの向上をめざす職員研修を実施。
中間振り返り	プロセス指標の達成状況	①:目標達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ②:目標未達成(見込)(i)取組は予定どおり進捗(ii)取組は予定どおり進捗していない ③:撤退・再構築基準未達成		課題と改善策	※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)			
自己評価	当年度の取組実績			課題	※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
	プロセス指標の達成状況			改善策	※左記に「②、③」、「イ」がある場合は必須
		①:目標達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ②:目標未達成 (i)取組は予定どおり実施 (ii)取組を予定どおり実施しなかった ③:撤退・再構築基準未達成			
	戦略に対する取組の有効性	ア:有効であり、継続して推進 イ:有効でないため、取組を見直す ー:プロセス指標未設定(未測定)			

「市政改革プラン3.0」に基づく取組等

取組項目1

【歳入の確保 国民健康保険料の収納率向上】

計画	取組の方針・目標内容	当年度の取組内容
	(趣旨・目的) ・保険料負担の公平性の確保と本市の歳入増を図る。 (参考) 【此花区国民健康保険料収納率】 平成26年度 86.75% (全市平均 86.81%) 平成27年度 88.01% (全市平均 87.96%) 平成28年度 88.39% (全市平均 88.62%) 平成29年度 89.90% (全市平均 89.16%) 平成30年度 89.54% (全市平均 89.55%) 令和元年度目標 89.74% (目標) 令和2年度 未定	(取組の内容) ①滞納整理(差押の計画的実施) ②早期納付指導 ③口座振替の徹底 ④資格の適正化(社会保険加入調査・不現住調査) ⑤賦課適正化(保険料の軽減・減免)

中間振り返り	取組内容の実施見込み	(i)実施見込み (ii)実施できない見込み	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
	目標の達成見込み	①:達成見込み ②:達成できない見込み	

自己評価	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
	①: 目標達成 ②: 目標未達成	

取組項目2

【タイトル】

計画	取組の方針・目標内容	当年度の取組内容
	(趣旨・目的) (取組の概要) (目標)	(取組の内容) (目標)

中間振り返り	取組内容の実施見込み	(i)実施見込み (ii)実施できない見込み	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
	目標の達成見込み	①:達成見込み ②:達成できない見込み	

自己評価	当年度の取組実績及び目標の達成状況	課題と改善策 ※左記が「②」の場合は必須
	①: 目標達成 ②: 目標未達成	